

会 議 録

会議の名称	第2回第2期笠間市教育振興基本計画策定委員会 議事録		
開催日時	令和3年11月25日(木) 午後1時30分～午後3時20分		
開催場所	笠間市役所行政棟 2階 庁議室	事務局	教育委員会教育部学務課
会議の公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <非公開・一部公開とした場合の理由>	傍聴者数	0人
出席者	出席委員：伊藤哲司委員長、松橋義樹副委員長、鈴木宏一委員、川崎幸良委員、 荒川千恵子委員、和賀誠委員、山根将大委員、南秀利委員、町田満委員、 大月裕美委員、下条かをる委員、堀江 正勝委員 【12名】 事務局：4名		
議 題	第2回第2期笠間市教育振興基本計画策定委員会		
議 事 (審議経過及び発言内容)			
<p>【配付資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期笠間市教育振興基本計画(案) ・第1回第2期笠間市教育振興基本計画における委員からのご意見について <p>1. 開会</p> <p>2. 策定委員会委員長あいさつ</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1) 事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期笠間市教育振興基本計画(素案)について <p>(2) 意見交換</p> <p>【質問・意見等】</p> <p>委 員：学力・学習状況調査の結果を数値目標にたてているが、昨年度は実施していないので、「令和元年度の値を基準値に設定している」と注意書きで表の下に書いてある。これならば基準値の下に記述されている令和2年度の実績という表記を令和元年度にしたほうがつじつまが合う。注意書きはそのままいいので、令和元年度実績にしているところについては、令和元年度実績という表記にしたほうがよい。</p> <p>委 員：26ページ「主な取り組み」 ②を先頭にくるよう改行したほうがよい。</p> <p>事務局：ご指摘のとおり修正する。</p> <p>委 員：文章の中に「一人一人」という言葉が何度も出てくるが、数字の「一人一人」と平仮名の「一人ひとり」があるが、これは意味があるのか。</p>			

事務局：一般的な使い方を確認したところ、漢字で「一人一人」を使うときには、その前後に漢字が含まれないとき、前後に漢字があるときには漢字と平仮名の「一人ひとり」にすると読み手が読みやすいということで使い分けをしている。

委員：29 ページ「③こども育成支援センターと連携した教育相談・支援体制の充実」の中で、こども育成支援センターが2年前に設置され、「具体的事業」の「医療的ケア児支援体制の推進」が入っているが、こども育成支援センターにおいて、医療的ケアの部分は厳しいのではないかと。全然関係ないわけではないが、この項目に特化するのはどうなのか。協議が必要だと思う。30 ページ「切れ目ない支援策の実施」「読み書きの困難がある児童生徒への支援充実」の項目はこども育成支援センターと連携しながら実施している部分であるので、学務課とこども育成支援センターも担当の部署としてほしい。

連携した事業の中に、就学前の発達相談会も行っているのだから、ここに入れるか、就学前の取組に記載するか検討してほしい。61 ページ主な取組の中で、「ベビークラス事業」については、図書館の事業ではなく保健センターが主催して実施している事業なので変更をお願いしたい。

事務局：確認し修正する。

委員：37 ページ「③行政や地域との連携・協働による防災教育の推進」のタイトルについて、内容は安全教育と防災教育の両方が含まれている。タイトルも「安全教育・防災教育」としたほうが整合性がとれる。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

委員：3 ページ第2段落1行目「第3期教育基本計画」、教育と基本の間に振興が抜けているので追加が必要。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

委員：5 ページのグラフの三角で繋いでいる折れ線グラフの説明、保育所・園が下の四角の中にない。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

委員：17 ページ現状と課題の最初の○の2行目、「個々に応じた発達と、育ち」の間の点はいらない。「今後の方向性」の「幼児教育、保育の需要などを把握し、認定こども園と保育所」のところは、認定こども園のあとに点がいいと思う。みんな併記して並べたほうがいいと思う。最後の行、「幼児一人ひとり状況に応じた最適な」になっているが、何をもちいて最適というのか、この文言を使うのは考えてもいいのではないかと。18 ページ「特別な支援が必要な幼児の早期の発見」と「の」が2つ続くので、「幼児の早期発見」でいいのではないかと。それから、これは個人的な意見だが、「特別な支援が必要な」という言葉が何か所かでてくるが、これはどうなのかと思っている。「多様な特性をもつ」とか、少し柔らかい言葉にしてもいいのではないかと。特にその保護者からすると、うちの子は特別なのかということになる。少し気をつけて表現しておかないといけないと少し感じた。

委員：「特別な支援」という言葉については、基本的に文部科学省で使っている。公的に使っている文言なので、公的機関で活用することについては問題ないと思う。造語で笠間市が作った言葉が根拠は何なのかと聞かれたときに、説明ができないことのほうが怖い。文部科学省が特別な支援という言葉を使用していることについては、はっきりとした根拠があるので、その言葉を用いたほうがよいと思う。

委員：こども育成支援センターは、「発達の気になるお子さんのご相談」という形の表現が多い。

委員長：国が使っているものを使うのが妥当かなと思うところもあるが、その一方でご指摘のと

おり親御さんにすればというのは確かにある。17 ページ下の「最適な」の文言だけに関して言うならば、この形容詞は取ってもいいと思う。「幼児一人ひとりの状況に応じた幼児教育の提供体制」といっても十分通じるし、意図は通じる。

委員：19 ページの数値目標「研修会参加人数」の研修はどういう研修を指しているのか。研修会の参加人数は目標とするものなのか。

事務局：指標については、幼児教育の研修会を定期的実施し、就学前教育の充実を図るということで、幼児期と小学校教育の連携及び接続を推進する研修会に参加する保育担当者及び教員の数ということで、幼児保育施設と小中学校、市内で29施設あり、目標として2名以上参加としているが、1名参加もなかなか難しい状況のためこの目標となっている。

委員：33 ページの「②小中高大連携」の数値目標ですが、目標値単位はパーセントでよろしいでしょうか。指標の内容「小中高大の連携した学びの展開」とありますが、具体的に何の割合を見ようとしているのかが分かりにくいので、分かりやすい表現に修正していただきたい。

事務局：この数値目標については、65 ページ25 番に、「市内小中学校と高等学校、大学との連携状況を把握するということで、それぞれの交流事業実施校の割合」ということで記載している。

委員：内容は分かりましたが、それであれば33 ページの指標内容にも「小中学校と高等学校、大学との交流事業を実施した学校の割合」というように直していただいたほうがよいと思う。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

委員長：31 ページ③4 行目、「反転授業」ということを最近よく聞くがはどういうものか。

委員：通常は学校の授業の中で基本的なことを教え。ベースを入れたうえで家で復習するというやり方を反転させた授業である。例えば自宅で基本的なことを一通り勉強をさせ、学校の授業ではさらに一步進んだグループワークであるとか、従来のやり方を逆にして、アクティブラーニングを意識したようなこと。

委員長：よくわかりました。脚注に説明があるといいと思う。

委員：36 ページ「施策の方針3 持続可能な社会の実現に向けた家庭・地域・との連携に向けた」で、「と」の前の点はいらぬ。このタイトルは誰が家庭・地域と連携・協働するのかが分からない。分かるような文言にしたほうがよいかと思う。それともう1点、コミュニティスクールを導入して、これからいろいろやっていくということですが、現段階では難しいかもしれませんが、「(1) 地域で取り組む教育活動の推進」に対応する数値目標、38 ページがコミュニティスクールの内容が入ってない。内容を素直に読むと、コミュニティスクールを推進して、110 番の家の看板設置数を増やすとか、地域の行事への参加率を増やすというロジックになってしまうので、コミュニティスクールの取組に関する数値目標を入れていただくことの検討をお願いしたい。

事務局：検討します。

委員：県では、コミュニティスクールに関して、地域人とかコーディネーターを置いたほうがスムーズにいくというアドバイスがある。笠間の場合はこれを使わないので、誰がやるのか今暗礁にのっている。

委員：実際コミュニティスクールを導入していろいろなことをお互いにやっていくというのは、もう少し先の話になると思う。ただ導入の部分で笠間市なりのやり方、教育委員会の考えがあろうかと思うが、今後5年間でどこまでそれを到達させるかということについて、も

う少し具体的にあったほうがいいかと思う。そうしないとこの5年間で設置はしたが全く活動できてないというケースになってしまうのは非常にもったいないと思う。

委員：39ページの「主な取組 ①いじめ・不登校の減少等への対応の充実」2行目「いじめや不登校の未然防止」とあるが、いじめと不登校を同じように論じていることに少し違和感がある。いじめはもちろん未然に防ぐべきと強く思うが、不登校に関しては、もちろんみんなが楽しくここに行けるのが理想だと思っはいるが、ただそういう選択肢が許容される部分がないと、行き場のない、やり場のない子どもたちがいるというのも事実です。不登校は未然に防止しなければいけないと言われるとかなり苦しくなる。

40ページの数値目標も不登校児童の割合を0%にする、要するに不登校をなくすという目標を掲げているが、ここにも関わってくる。学校が変わって、子どもたちが本当に楽しく学べる場としてやっていくことは、大変重要だということは認識しているが、学校に行かないという選択肢が100%否定されるものでもないのかと思うので、表現を工夫したらいいのかと思う。

委員：いじめと不登校を一緒にしてしまうのは違和感があり、教育現場の現状は100%把握しているわけではないが、最近テレビで見たものでは、学校に行かないという選択肢をとっている家庭もあり、親が教科書で指導をしているのを見たことがあるので、そういったことも考えて0%を市として徹底するのはどうなのかと思った。ただ、どちらが正解かは分からない。

委員：私も基本的に同意します。今、文科省が不登校児童生徒の在り方についてということで、各教育委員会に通知を出しているが、不登校の児童生徒への支援という言い方が主になっていて、単に学校に復帰させることが目標ではない。将来設計なども含めた形でいろいろなことを児童生徒に考えてもらいながら、そこに向けたサポート、文科省もそういう方針を出しているの、それを踏まえた表現という、「いじめの未然防止と不登校への児童生徒への支援」といったような言い方が1番妥当ではないかと思う。

委員長：少し表現の仕方の工夫をお願いします。

委員：39ページ「子どもの貧困対策・児童虐待の根絶に向けた取組みの推進」の具体的な事業で「子ども家庭総合支援拠点事業」について、余りに大きな事業としてなので、例えば貧困とか虐待等の要保護児童に関する相談を入れてはどうか。

事務局：具体的な内容としては「要保護指導対策事業」「家庭児童相談事業」ですが、担当課と協議して検討する。

委員：34ページ「③教職員の働き方改革の推進」ということですが、確かに仕事量が大変でというのは分かるが、働き方改革という割には文章がさらっと流しているんじゃないかと思う。文章を変えろとかいうことではないが「働き方改革」は「改革」になっているのかという意見です。

委員長：小中学校、高校の先生、大学もそうだが何かと忙し過ぎるといふか、なかなか手が回らないといふか、そういうところが本当にあり、私としても強くお願いしたいと思うのですが、確かに表現をもう少し工夫して充実させてもいいかなと思いました。

委員：50ページの数値目標の中で、今回の計画の中でほぼ全ての目標数値が改善されている設定の中、「スポーツ少年団加入率」の基準値が下がっているが、なぜ下がった目標値になっているのか教えていただきたい。

事務局：児童生徒数が減少しているということもあり、スポーツ少年団に加入、維持することが難しい状況であることから、他は増加を目指しているが、この加入率に対しては減少しな

いようこの数値を維持していくということで、この数値目標となっている。

委員：ほとんどが改善数値目標を掲げているにもかかわらず、こういった数値で上がっている
ので、そういった説明があってもいいのかなと思う。

委員長：数字上は下がっているのですが、例えば16.0%とかにしておいて説明を加えたりしておくと、
今のような疑問は出てこないのかなと思う。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

委員：49ページ「今後の方向性」4番目「部活動を学校単位から地域単位の取組とし、地域部
活動の推進」ということですが、具体的に総合型スポーツクラブや、地域の人などに協力
してもらって推進するのか。この部分は先生の働き方改革の部分から繋がってくる
ところが部活動の顧問をする先生の負担の軽減ということで、地域で教えていただけるような
方を育成という部分も含めて、地域で協力して部活動を指導していただくということで、
どのようにしていくのか。

事務局：具体的にはまだ進んでいないが、今後の方向性として進めていくということで記載して
いる。

委員：今の質問でスポーツ少年団に入っている子、クラブチームというものもある。クラブチ
ームに行くと月6,000円ぐらい払っている。中学校に行くと部活に入るかクラブチ
ームか、二重登録になってしまうので必ずどちらかを選択しなければいけない。そうするとク
ラブチームでやっている学校の部活では試合にでられない。今のは自分の孫の話ですが、
どうするか迷っている。そういうのが現実です。社会体育での少年団、クラブチームの大
会、学校体育の大会もあるので、今非常に過度期になっているのではないかなと思う。私が
現職の頃も20年ぐらい前から、これは学校体育よりも社会体育にすべきだと思っていた。
そうしないと実績がなかなか出てこない。これが現状の情報提供です。

委員：他の部分ではあまり気にならなかったが、図書館のページにきたら急に、市民のニーズ、
利用者のニーズ、多様なニーズという言葉がすごくたくさん出てきて、いったいどのよう
な形で、市民のニーズ、利用者のニーズを取り入れていくのかという具体的な形が見えて
こない。57ページの「今後の方向性」で「高齢者や障がいのある方の利用に配慮した支援
の充実」というのがあるが、58ページ「主な取組」で、「利用者の多様なニーズ応じた」と
いう文言のところに、「具体的な事業」で「視力の弱い方に対応するための大活字本の提供」、
「音訳ボランティアによる音声資料の提供」というのがあるが、視力に限った対応だけし
かしないのが少し気になる。図書館に来られない方というのは、いろいろな方がいると
思う。高齢者や、小さいお子さんは1人で来られないので保護者が連れてくる。子ども読
書の推進に関してアンケートをとったところ、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、
特別支援、どこの部分でも移動図書館の希望があり、これは、子どもだけでなく、高齢者
などの声も聞いたことがある。図書館独自でやれるものかはわからないが、移動図書館、
宅配という希望も聞いたことがある。そういうものを含めた形の事業というものがこれか
らできるといいのかなと思う。

委員長：さらに多様な方々に対応した図書館の利用の可能性を広げるといことですね。

委員：会議資料の添付データの出所が「同上」と書いてあるので、他と表記は統一していただ
きたい。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

委員長：数値目標に関しては、数値目標を達成することが目的化してしまって、本末転倒が起き
ている気がする。数値目標を達成することが本当にどうなのかなというときが時々ある。

何%増と言われても、そんなに簡単に増やせるものでもない。確かに目標だが、それを達成することが最優先課題というのはちょっと違うんだという共通理解がないと、何かおかしなことになってしまう。その辺をうまく位置づけられないかと思う。

委員長：私もそのとおりだと思う。基本的には数値化できるものでないとなかなか目標設定はできない。だから、数値だけを追いかけるようにならないために、可能な範囲でとなったときは例えば100までいかなければいけないものなのか、要は市民全体とか、特定のニーズにきちんと対応することができることが目標なのか、特に自治体が行う事業で、当然市民全体を対象にというのが基本だが、特定のニーズにピンポイントで答えることも役割としてあるので、それがこの数値目標にそういう趣旨だということがわかるようにするだけでも、単に数字を追いかけてるだけではなく、それぞれの数字に意味があるというところがわかっただけなのかというところは、特に今日の特別な支援というような話であったりとか、そのようなところにも関係してくるところが、また改めて事務局のほうで検証、点検していただけるとありがたいと思う。

委員長：数字にできない部分というのはたくさんあろうかと思う。繰り返しになるが、とにかく数字だけを合わせるようにならないことが大変重要かと思うので、そのあたりの共通理解を作っていけるといいかなというふうに思う。

委員：SDG sのことが世界中でいわれている中で、全く触れないというのもどうかなと思う。あれが全てではないが、少し活用すると1つの共通言語として、議論ができる、対話ができるという側面があるのかなと思う。

委員長：学校教育の中でもSDG sの教育をやりなさいというのがある。でもどうやっていいのかわからず、小学校から手伝ってほしいと言われることがある。私たちもよく知ってるわけではなく模索中ではある。ただ2030年を目標にということで、少し入れていくのも手かなと思う。

委員：学校内でもSDG sの話が飛び交っているが、なかなか遠いというのが確かなところで難しいだろうというのものもある。例えば市の総合計画でSDG sの話がでてきているのであれば、何らかの形でこの計画にも取り入れるべきだと思うが、現実的には3ページの「教育をめぐる社会情勢」の1段落目「Society5.0」にもう1つの柱として「SDG sの達成に向けて」という言い方が適切かはわかりませんが、そういう見方でと取り組んでいくんだというようなことが一行入っているだけでも違うのかなと個人的には思う。

委員：この教育の計画の中でSDG sを使うのはなかなか難しいと思うので、同じく3ページにあれば、意識しているということが表現できるからいいかなと思う。

委員長：第5章71ページのPDCAサイクルだが、これはよく使われていて有効な方法ながら、これをやるためのものすごく労力がかかる。私の同僚はそれをやること、やるためのものになっていないか批判的にとらえている。私も思うところがあり、先ほどの数値目標と同じでこれをやるのが目的ではなく、これをやることによっていろいろなことが推進されることが大事な点だと思うので、本末転倒にならないような形をとっていただけるといいと思う。

委員：6ページの数字が半角だったり全角だったりする。

事務局：確認し修正する。

委員長：キャッチコピーについてはいかがか。前回のときは「レジリエントな人づくり、まちづくり」を例として挙げたが、カタカナ言葉でよくわからないのではないかと思うようになった。シンプルでごろがよくて、小学生でもわかるようなキャッチコピーがあってもいい

のかなと思ったが、そのようなものはいらないという考えがあるかもしれません。必ず入れなければならないというものではないでしょうし、そんなにこだわりはないが、ご意見をいただければと思うが、事務局としてはどうか。

事務局：この計画が10年計画である第2次笠間市総合計画の5年が経過した後期の計画に合わせて教育に関する分野の計画として改定するという事で、前期計画の中で3つの教育目標と施策の基本方向として「役に立つ人づくり、郷土を愛する人づくり、心身ともに健康な人づくり」を柱としており、今回の改定に当たっても変わらずこの3つの人づくりを全面に出して強調していきたいということで、特に改めて他の言葉で表現することは考えていませんでした。もし委員のみなさまで3つの人づくりにそった、全ての方によりなじむようなものをご提案いただけるのであればお願いしたい。

委員長：全体にも関わることなので、この基本計画にキャッチコピーをつけるのは難しいかもしれない。気持ちとしては学びということがすごく大事で、笠間だという、そんな気持ちは込めたいと思うが、これを委員会として形にするのはやめておいたほうがいいのかなと思う。

委員：キャッチコピーという位置づけではないにしても、教育の基本方向の3つの人づくりの文言は表紙に書いてあったほうがわかりやすいような気がする。それが実際にキャッチコピーのようになり、小学生にもわかりやすい。専門用語でもないので、表紙のレイアウトに含めて検討するという事でいいのかなと思う。

委員長：委員会としては、そのように希望するという事で意見として出させていただきたいと思う。

9. その他

(1) 次回策定委員会の日程について

- ・ 次回の開催日程は2月を予定しているが、改めて日程調整しメールさせていただく。

10. 閉会

以上